

市政を問う 一般質問要旨

一般質問とは

議員が市政全般にわたり、執行機関に対し、事務の状況及び将来に対する方針等について質問することをいいます。一般質問(要旨)につきましては、議員ごとにまとめたものを掲載しております。これまでの会議録は、小平市議会ホームページで、閲覧・検索ができます。動画もご覧になれます。



佐藤 徹議員 (市議会公明党)
西部地域の交通安全対策向上
学校体育館へ冷暖房設備整備を

西部地域のさらなる交通安全対策の向上を目指して

質問 ①十二小通りについて、歩車道を区別する白線とグリーンベルトの塗り直しを早急に実施すべきと考えるが、見解は。

②美大通りの都市計画道路3・3・3号線の丁字路から青梅街道に至る区間で、車両の減速を促す表示等が必要だが見解は。

市長 ①表示がはつきりしない部分もあり、交通管理者と調整しながら適切に対応していく。②速度抑制が必要な箇所では、注意喚起看板等で抑制を図るなど、交通管理者の協力も得ながら安全対策の向上に努めていく。

学校体育館への冷暖房整備を都の補助金を活用して進めるべき

質問 ①都の補助金を活用して設置を進めるべきだが見解は。

②冷暖房機のリース事業者に対する都の補助制度を活用して設置を進めるべきだが、見解は。

教育長 ①コスト面等の課題がある。引き続き運用方法等の把握に努め、都の補助事業の動向も見きわめながら、よりよい教育環境等の確保を研究していく。②都はリース契約を活用した冷暖房機の設置も支援するとしていることから、設置をする場合にはリース契約の活用についても1つの手法と考えている。



吉瀬恵美子議員 (日本共産党小平市議団)
在宅呼吸器／高齢者おむつ支給／スクールソーシャルワーカー

在宅人工呼吸器等の使用者への災害時等の対応について

質問 ①人工呼吸器、酸素濃縮器を在宅で使用する人数は。

②在宅の人工呼吸器、酸素濃縮器使用者への災害時対応は。

市長 ①前者は災害時個別支援計画作成者として20人、後者は要支援申告者として18人である。

②前者は災害時個別支援計画を作成し状況把握等に努めている。後者は特段対応していない。

再び、ねたきり高齢者おむつ支給等事業について

質問 ①28年12月定例会の答弁後、どんな検証と研究をしたか。

再び、ねたきり高齢者おむつ支給等事業について

質問 学校や関係機関、関係部署との連携と情報共有はどうか。

教育長 連絡会をほぼ毎月開催し、ワーカー同士の連携強化を図っている。必要に応じ子ども家庭支援センター等の職員が参加し連携体制強化を図っている。

スクールソーシャルワーカーの機能と体制について

質問 学校や関係機関、関係部署との連携と情報共有はどうか。

教育長 連絡会をほぼ毎月開催し、ワーカー同士の連携強化を図っている。必要に応じ子ども家庭支援センター等の職員が参加し連携体制強化を図っている。

住宅が建ち並ぶ美大通りの様子 (平成31年4月時点)



山岸真知子議員 (市議会公明党)
鷹の台駅前広場実現と駅周辺の無電柱化

鷹の台駅の駅前広場の早期実現と駅周辺の無電柱化の検討を

質問 ①たかの台本通りは狭隘で、現在の通行状況では課題が多いが、無電柱化の検討は。

②駅前広場の整備に向けて、市民参加も含めどう進めるのか。

市長 ①今後、良好な通行環境創出に向け、道路拡幅以外にも有効幅員の確保に効果がある無電柱化等有効策を検討していく。

②用地が確保できた場合、早期に事業に取り組みたいと望ましいと考える。説明会等情報提供を行い、もつた意見も参考にしながら駅利用者等に喜ばれる駅前広場整備を目指していく。

命を守るがん対策をさらに積極的に展開しよう

質問 ①子宮頸がんワクチンについての確かな情報を正しく市民に情報提供すべきだが見解は。

②乳がん検診受診者への2年後の受診勧奨が効果的と考えるが、検討できないか。

市長 ①国の通知でワクチン接種の積極的勧奨は控えているが、正しい理解への情報提供は必要である。ホームページに相談窓口等の情報を掲載しており今後さらなる情報提供に努めていく。

②継続的な受診につながる1つの方法と考える。引き続き受診勧奨の方法を検討していく。

学童クラブへの障がい児の入会等について

質問 ①入会枠を撤廃し、希望に応えるべきだが市の見解は。

②個々の特性に合った過ごし方を本人等の希望がかなうよう支援すべきだが見解は。

市長 ①入会児童数増加に伴う学童クラブ数の増加により、現在はおおむね保護者の希望に応えられる体制だと認識している。②入会申請書に注意を要する事柄の記入欄を設けているほか、面談を行い児童の希望等が反映できるよう努めている。今後も児童の特性に合った放課後の過ごし方ができるよう努めていく。



幸田昌之議員 (市議会公明党)
市民生活を守る防犯対策の推進／暮らしを守る消防団の支援を

市民の生活を守るための防犯対策をさらに進めるべき

質問 今後の登下校区域への防犯カメラの設置についてはどのような計画で進められるのか。

教育長 小・中学校通学区域に必要な箇所は、新たに16台設置し、児童・生徒の安全確保のため、環境整備を行う予定である。

その後は防犯カメラの運用状況や今後の小平警察署との通学路合同点検の実施結果等を踏まえ設置の必要性を見きわめていく。

市民の暮らしを守る消防団をもっと支援すべき

質問 ①全国で活躍する女性消防団員の採用についての見解は。

②新たな消防団員の育成、募集が課題と考えるが市の見解は。

市長 ①消防団の男女共同参画の推進とともに、活動内容の多様化等に対応するため、女性団員の活躍が期待できると考える。②育成面は、eラーニングシステムが導入され自己学習等の利便性が向上している。また、社会情勢の変化等で団員の確保が困難なことが課題と認識している。今後は体制強化とともに、女性団員の採用や機能力消防団員制度の導入など検討していく。

【掲載分以外の質問項目】
○萩山駅、一橋学園駅周辺と市役所西通りの安全対策について

市民が市の経営者としての目を養うために

質問 ①行政として公共サービスの見直しで総論が必要とした事項は、住民を各論の賛成に導く責任があると考えるが見解は。

②経営者の目で市政を見ることのできる市民の誕生を期待したいところだが見解は。

市長 ①総論となる大きなビジョンの実現には個々の取り組みの着実な推進が必要であり、各取り組みへの市民の理解と合意形成が重要だと認識している。②自治基本条例に基づき参加と協働が促進され、多くの人が市政等の課題にかかわることで、

市の経営状況等への関心の高まりなどが図られると考えている。エンディングノートの作成、配布の取り組みは進んでいるか

質問 ①他市の取り組み事例等、集めた情報の分析結果は。

②改めて、小平市版エンディングノート作成の考えはないか。

③横須賀市のわたしの終活登録制度を実施する考えはないか。

市長 ①30年度から多摩26市のうち4市が作成、配布を開始しており現在8市が作成している。②内容、配布の時期や方法等について検討していく。

③横須賀市の実施状況等、情報収集しながら研究していく。

市民が市経営者としての目を養うために／エンディングノート